

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>1 鶴ヶ島市の防災対策は (40分)</p> <p>私達は、阪神淡路大震災そして東日本大震災を経験した事から防災に対しての意識が変わり、今まで以上に災害に対する備えや対策が必要であるという考え方が強くなって来ました。</p> <p>本年4月14日に発生した熊本地震は「前震」の28時間後に阪神淡路大震災級の「本震」が襲ったことで、常識を覆す「連鎖地震活動」が多くの被害をもたらしました。地震学者が「地震活動が時間の経過とともに徐々に収まる」という常識は崩れた。そして地震の規模や時期の予測で被害を減らせるという考え方を改める必要がある。」と語っています。</p> <p>埼玉県においては、東京湾北部地震、立川断層帯による地震、深谷断層帯による地震及び綾瀬川断層帯による地震や相模トラフ沿いに発生する巨大地震などの地震を対象に被害想定を作成しています。</p> <p>本市において平成28年4月1日鶴ヶ島市地域防災計画が発表され、「関東平野北西縁断層帯地震(破壊開始点:北)」には、鶴ヶ島市でも最大6,041人の帰宅困難者が予想されています。</p> <p>また本市では、高齢化率が25%近くにもなり、要配慮者数が約22,850人にもなっています。東日本大震災から5年が経過し、熊本地震が4月に発生しましたが、日本中どこで起きてもおかしくない「次の災害」に本市はどのように対応していくのかについて、以下の質問を致します。</p> <p>(1) 熊本地震では「前震」「本震」という経験をしましたが、本市近くを通る活断層での可能性について</p> <p>(2) 市民への防災に対する考えの周知について</p> <p>(3) 災害時要援護者支援計画について</p> <p>(4) 東日本大震災の被害を踏まえた学校施設の整備について</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)									答弁を求 める者
(5) 災害時における企業との支援協定、他の自治体との相互 応援について									
地震による被害想定と比較									
被害項目		東京 湾北 部 地震	茨城 県南 部 地震	元禄 型関 東 地震	関東平野北西縁 断層帯地震			立川断層帯 地震	
					破壊 開始 点北	破壊開 始点、中 央	破壊 開始 点南	破壊 開始 点北	破壊 開始 点南
最大震度		5強	5強	5強	6強	6強	6強	6弱	6弱
全壊数(棟)		0	0	0	144	159	128	2	1
半壊数(棟)		3	1	0	962	1,014	914	45	88
焼失 数 (棟)	冬 18 時 8m/s	2	2	2	19	20	19	3	4
	夏 12 時 8m/s	0	0	0	5	5	4	0	0
死者 数 (人)	冬 5時 8m/s	0	0	0	10	11	9	0	0
	冬 18 時 8m/s	0	0	0	7	7	6	0	0
(鶴ヶ島市地域防災計画より)									
要配慮者数									
要配慮者数				人数	人口構成比				
高齢者(65歳以上人口)				16,865人	24.06%				
乳幼児(5歳未満)				2,964人	4.2%				
障害者	身体障害者			1,600人	2.3%				
	精神障害者			277人	0.4%				
	知的障害者			293人	0.4%				
外国人				859人	1.1%				
(平成27年4月1日現在 鶴ヶ島市地域防災計画より)									